

日本応用数理学会論文誌の T_EX による原稿作成について

応用 太郎^{*} 数理 花子[†] 学会 次郎[†]

^{*} 日本数理大学応用数理学科 [†] 日本数理株式会社中央研究所

概要. 本稿は, 日本応用数理学会論文誌の原稿作成のための T_EX テンプレートである. ただし, 本テンプレート中の説明は投稿規定, 執筆要項等を完全に網羅はしていないため, 別途それらを熟読されたい. ここの和文概要は 200 文字以内で記述する.

Writing a Paper Using T_EX for the Transaction of the Japan Society for Industrial and Applied Mathematics

Taro Ouyou^{*} Hanako Suri[†] Jiro Gakkai[†]

^{*}Department of Applied Mathematics, Nihon Suri University

[†]Central Research Laboratory, Nihon Suri Corporation

Abstract. This article is a T_EX template of the Transaction of the Japan Society for Industrial and Applied Mathematics. Note that this template does not cover all of the instructions for the authors. Please read and follow the instructions as well as this template. The length of English summary should be less than or equal to 100 words. The English title should be appropriately capitalized.

1. 本稿について

本稿では, 日本応用数理学会論文誌 (以下, “論文誌” と略す) の T_EX テンプレートについて説明する. T_EX による原稿作成の際には本稿のソースを参照されたい. まず, 本パッケージは以下のファイルよりなる.

- tjsiam.cls: クラスファイル
- tjsiamMacro.sty: スタイルファイル
- tjsiamTeXsample.tex: サンプル T_EX ソース (本稿)
- *.eps: 上記が参照する図ファイル

以上を同じフォルダに揃えてサンプル T_EX ソースをコンパイルすれば, 本稿が出力されるはずである. なお, cite.sty, txfonts.sty のスタイルファイルを標準で使用するので, 必要なら別途 CTAN (<http://www.ctan.org>) から入手する必要がある.

2. 本文執筆要領

この節では、本文の執筆要領のうち、最も基本的な部分について簡単に述べる。その他の注意は、次節以降にて順次述べる。なお本稿は執筆見本であり、正規の規定等については別途最新の「投稿規定」と「執筆要項」を参照のこと。

以下では、執筆要項の規定のうち、クラスファイルにより自動的に達成される項目と（第 2.1 節）、執筆時に著者が注意する必要がある項目（第 2.2 節）に分けて説明する。

2.1 クラスファイルで自動的に達成される項目

本パッケージのクラスファイルを用いれば、以下の点については、原則として執筆要項の指定のとおり出力される（執筆要項と本見本を見比べて確認のこと）。

- 余白および 1 行，1 ページあたりの文字数
- 章や図表の番号
- 数式番号
- 脚注
- ページ番号

脚注は、ここに示すように出力される^{*1}。数式は、たとえば次のように出力される。数式番号は数式の左側に出力される。

$$(2.1) \quad \int_0^{\infty} \frac{\sin x}{x} dx = \frac{\pi}{2}.$$

図表の書き方については、第 4 節も参照のこと。

2.2 著者が注意する必要がある項目

和文中の句読点は、全角の「，」を用いる。参考文献は和文・英文の区別なく第一著者（第二，第三，...）の姓のアルファベット順に並べ、本稿末尾に例示した形式で記述する。引用は [1]，あるいは [2, 3] のように行う（この引用出力に `cite.sty` が必要である）。参考文献の書式は以下のとおりである（[番号] は \TeX により自動的に出力される書誌番号である）。

- 雑誌文献の場合：[番号] 著者，論文題目，誌名，巻（発行年），開始頁–終了頁。
- 単行本の場合：[番号] 著者，書名，発行所名，発行場所，発行年。

^{*1} これは脚注の例である。

- WEB ページの場合：[番号] WEB ページ管理者 (プロジェクト), WEB ページ名, URL.

また論文末尾には，著者全員について 4 行以内の著者紹介が必要である．

3. 定理型環境について

以下の定理型環境があらかじめ定義されている．(これは著者の便宜をはかるためであり，必要に応じて著者独自の環境を定義して用いてもよい．)

- Thm：定理
- Lem：補題
- Cor：系
- Prop：命題
- Axi：公理
- Def：定義
- Conj：予想
- Exam：例
- Rem2：注意

「定理」環境の例を次に示す．

定理 3.1 (定理のオプション [3], 1999) ここに定理本文を書く．英単語は斜体ではなく立体になるよう設定されている (ソースを参照のこと)．また定理のオプションでは自動的にカッコ“(”と“)”が付く設定となっている．

証明 証明のためには，Proof 環境が用意されている．証明という文字が，証明の先頭に全角一文字インデントの後にボールド体で表示される．また，証明の終わりに“ ”記号が表示される．

4. 図および表の貼り付け

図表は，キャプションを含めて英文で記述する．キャプション末尾にはピリオドが必要である．図の例を Fig. 1 に，表の例を Table 1 に示す．

謝辞 謝辞のための環境として，Ack 環境が用意されている．

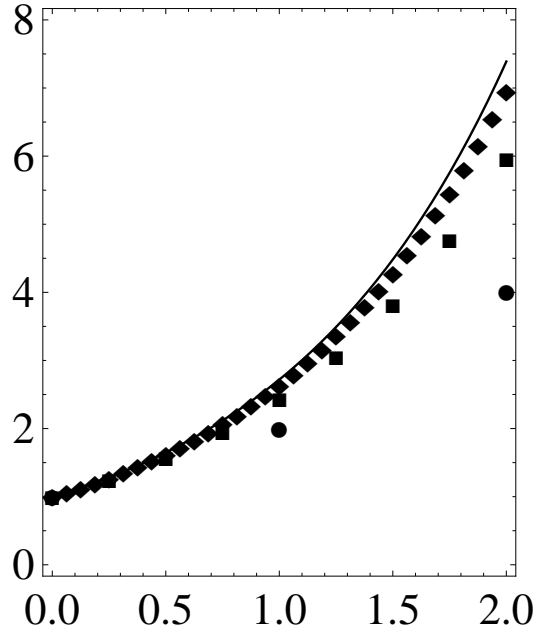


Fig. 1. Numerical solutions obtained by Euler method for $\delta = 1, 1/4, 1/16$. Solid line shows an exact solution.

Table 1. Error of numerical solution for $t = 2$.

δ	y_n	error
1	4	3.38906
1/4	5.96046	1.42859
1/16	6.95867	0.43039

参考文献

- [1] Higham, N. J., Handbook of Writing for the Mathematical Sciences, SIAM, Philadelphia, 1998.
- [2] Ouyousuuri, T., Ouyou, H. and Nihon, J., Stability analysis of algorithms for solving confluent vandermonde-like systems, JSIAM Sci. Comput., **10** (2000), 200–215.
- [3] 中野 賢, 日本語 L^AT_EX 2_ε ブック, アスキー出版局, 東京, 1996.
- [4] 日本応用数理学会論文誌編集委員会, 執筆見本, <http://www.jsiam.org/>.

応用 太郎 (正会員) 〒100-9999 東京都新宿区新宿町 1-0-0

1999 年日本数理大学大学院応用数理研究科博士課程修了，理学博士．現在，日本応用数理大学応用数理学科助教．日本応用数理学会，日本数学会会員．応用数学，特に数値表現と誤差の理論に興味を持つ．

数理 花子 (非会員) 〒199-9999 神奈川県横浜市港区 9-9-9

1982 年横浜大学工学部化学工学科卒業．現在，日本数理株式会社中央研究所主任研究員．日本数理大学客員講師．日本応用数理学会，日本応用化学会，米化学会会員．プラズマ工学等，応用化学の応用数理的側面に興味を持つ．

氏名 (正会員，学生会員，非会員などの別) 勤務先住所

ここに著者略歴を書く．全員分を書くこと．それぞれについて数行程度（最大 4 行程度）が望ましい．